

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	必修
担当教員			
渡邊 敏明			
水1、木3			
添付ファイル			

科目の概要	本講義は、「人体の構造と機能および疾病の成り立ち」の分野に含まれ、生体における生命活動を化学的に理解のために、生化学Iの復習をするとともに、糖質の代謝、脂質の代謝、たんぱく質の代謝、遺伝情報の発現の仕組み、酵素反応、微量栄養素の役割、生体の恒常性維持や情報伝達などについて学修する。
授業の内容	<p>1 細胞と細胞小器官の役割 本講義では、生化学Iで学習した内容を復習すると共に、三大栄養素、核酸、ビタミン、ミネラル、ホルモンなどの生体成分について深く掘り下げる。そして、これらが代謝とどのように関わっているのかについて学ぶ。 細胞の特徴および細胞内小器官の種類と役割について解説する。</p> <p>2 糖質の生化学的特徴 糖質の構造と種類について解説する。</p> <p>3 エネルギー産生 糖質の代謝について解説する。</p> <p>4 タンパク質の生化学的特徴① アミノ酸およびタンパク質の種類と機能について解説する。</p> <p>5 タンパク質の生化学的特徴② アミノ酸およびタンパク質の代謝について解説する。</p> <p>6 脂質の生化学的特徴① 脂質の構造と機能について解説する。</p> <p>7 脂質の生化学的特徴② 脂質の代謝について解説する。</p> <p>8 核酸の生化学的特徴 核酸の構造と機能について解説する。</p> <p>9 遺伝子発現の仕組みとその制御 遺伝子情報からタンパク質合成過程について解説する。</p> <p>10 酵素の生化学的特徴 酵素の分類と触媒する反応について解説する。</p> <p>11 酵素反応 酵素反応の特徴と酵素活性阻害について解説する。</p> <p>12 ビタミンの生化学的特徴と作用機序 ビタミンの分類と生理学的役割について解説する。</p> <p>13 ミネラルの生化学的特徴と作用機序 ミネラルの分類と生理学的役割について解説する。</p> <p>14 ホルモンが生化学的特徴と作用機序 ホルモンの種類とホルモンによる情報伝達機構について解説する。</p> <p>15 まとめと評価（到達度の確認） 生体内における三大栄養素および微量栄養素の関連について総合的に解説する。</p> <p>定期試験</p>
学習到達目標	生命現象を理解する上で、生化学の知識は必須である。生体を構成する物質は高分子からビタミン・無機塩などの低分子まで様々であり、これらが複雑に作用して生命が維持されている。そこで、本講義では、生命現象とその生理機能の基盤となる三大栄養素の構造、機能、代謝を理解できるようにする。またこれらを維持するために重要な役割を果たしている、酵素反応、情報の発現、微量栄養素や情報の伝達について学ぶことを目標とする。
授業の方法	<p>【授業形態】 ・講義</p> <p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】 ・サブノート形式の資料を用意して、重要語句については質問しながら、共同で理解させる。</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】 ・液晶プロジェクターを利用して、化学反応がイメージできるように説明する。</p> <p>【その他特記事項】</p>

成績評価の方法	<p>【評価項目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 講義に積極的に参加しているか。 ・理解度 説明内容を理解しようとしているか。 <p>【割合】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期試験80% ・授業態度20%
教科書・テキスト	福田 満編 新食品・栄養科学シリーズ 生化学第2版 人体の構造と機能及び疾病の成り立ち 化学同人
参考書	林 淳三監修 Nブックス人体の構造と機能 改訂生化学 建帛社 必要に応じてプリントを配布
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	学習内容については、授業時間内にできるだけ理解し、その日の内に必ず復習をすること。
履修上の留意事項	【重要】生化学Iを履修していることが前提である。 生化学Iを十分に理解していない学生は、事前に復習をしておくこと。
オフィスアワー	特に定めませんが、事前に連絡をしてから訪問すること。
課題に対するフィードバックの方法	授業時間中に返却、解説すると共に、必要に応じて、Aportal を利用する。
実務経験	
その他	関連URL: http://www.osaka-aoyama.ac.jp/department/university/health_nutrition/hn_teacher/watanabe_toshiaki/